中音研ニュース

３６号

奈良県中学校音楽教育研究会
Ｈ２６.９.１９発行*広報部*

去る６月６日（金）大和高田市立高田西中学校において、本年度の奈良県中学校音楽研究会総会と研究授業が行われました。研究授業は坂本匡司先生に３年生表現領域を中心にしていただきました。

研究協議では、奈良県教育委員会学校教育課指導主事の米谷幸先生にご指導、ご助言をいただき、その後、総会が開かれました。

♪♪♪～研修会　至福のひととき 松井孝夫先生講義～♪♪♪

午後からは、聖徳大学音楽総合学科准教授で、「マイバラード」など数々の合唱曲を作曲されている松井孝夫先生をお迎えし、研修会を行いました。

県下の先生方がにわか合唱団になり、１０曲ほどを先生の指揮の下（！）合唱しました。各曲について、作曲されたときのエピソードや歌い方など、微に入り細に入りご指導いただき、先生方の喜びに満ちあふれた歌声が音楽室中に響き渡りました。

松井先生の温かいお人柄があふれたご指導に私たちはすっかり魅了され、このままこの幸せな時間がずっと続いてくれたら・・・と思い、合唱のすばらしさをかみしめながらおもいきり声を出すことができました。

研修の最後には、自らピアノ伴奏をしながら、新曲を披露してくださいました。熱いメッセージのこもった楽曲に聴き惚れました。

終了後も、お忙しい中、数々のリクエスト（写真撮影など）に応えてくださり、改めて先生の懐の深さに触れることができ、感激しました。明日への活力がわく、素敵な研修でした。

〈先生方の感想〉

（ご意見いただきました先生方のお名前　敬称略させていただきました。ご了承ください。）

＠研究授業について

・受付をしていたので「帰れソレントへ」ぐらいからしか見ていないのですが・・・。ピアノの音と坂本先生の声が印象的でした。私もまだ偉そうなことは言えませんが、歌の基本である姿勢の見直しが必要かと感じました。子どもたちの笑顔で歌う姿を

見るのが私たちの醍醐味でもあると思うのですが・・・。
･ピアノの音が大きくて生徒の声が全く聞こえませんでしたが、授業の中でどのように生徒を評価するのでしょうか。ただ、先生の投げかけに対して、生徒達が色々な反応を示していました。それを先生が拾い上げてくださることで授業の展開がもっと変わってくるのでは。
・落ち着いた雰囲気で、内容も盛りだくさんでした。
･先生自身の音楽観や指導観が溢れた授業でした。ただ、生徒の声が聞こえない授業でした。ピアノの音や声のメリハリなど、自分自身の反省にもなりました。
・坂本先生はおそらく声楽専攻の先生なのかなと思いました。曲の歌詞の意味に合わせた呼吸の説明が勉強になりました。「たったひとつ」の下のパート、４段目２小節目の音が途中で変わっていたので、最初わざと編曲されたのかなと思いました。最初の起立がなかったのが気になりました。私も声楽専攻なのでイタリア語で歌わせるのはよい試みだなと思いました。ただまだ中学生なのでイタリア語をひとつひとつ理解するのはなかなか難しいところもあるのかなと思いました。

＠研修会に参加して

・初見で大変でしたが、楽しかったです。ギターの研修があればいいのにと思っています。
・合唱する楽しさを肌で改めて感じることができ、子どもたちにもその喜びや楽しさを伝え、体感させられるように今後も授業をしていきたいと思いました。

（式下中　藤田哲也）

・松井先生に初めてお会いして、研修を受けて改めて合唱指導の楽しさを感じました。松井先生の「マイバラード」は、今年私も自校で歌うので、得たことを生かせるようにしたいと思います。
・６月ということで毎日色々な事に追われている中で、改めて音楽、歌のすばらしさを感じました。自分自身とても心がふるえ、明日からまた子どもたちと一緒に音楽を楽しもうという気持ちになりました。ありがとうございました。

（菟田野中　山尾依利）

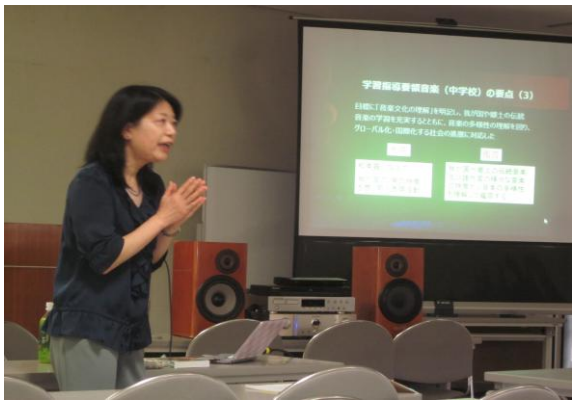
・松井先生サイコ―♡でした。合唱の喜び、歌う喜びを自分自身再確認でき、午後から楽しいひとときを過ごすことができました。企画していただいた先生方、お世話をおかけし、ありがとうございました。
・松井先生がどんな思いで作られたかというのを楽譜と当日の歌を通して、ヒシヒシと伝わってきました。今年の合唱コンクールの課題曲は松井先生の曲でいきたいと思います。
・松井先生の心からのお話をいただいて先生のお人柄が歌に表現されていて、歌いながら涙が出ました。また生徒達と一緒にすてきな合唱を心から作っていきたいです。ありがとうございました。

（天理中　岡本直子）

♪第21回奈良県鑑賞教育研修会、第7回近畿夏の勉強会♪

今年度は「よりよい授業を求めて～鑑賞領域の指導と評価～」と題し、７月２３日、２４日の２日間にわたり、王寺町やわらぎ会館で行われました。

１日目の午前中は奈良県教育委員会学校教育課指導主事の米谷幸先生を講師にお招きし、「鑑賞領域の指導と評価」について先生のご経験談も交えながら、わかりやすく解説していただきました。



午後から、2 日目にかけて、10 月に行われる近畿音楽研究大会に向けて、指導案の作成や考察を深めました。2 日目午後からは実際の授業の流れを近音研の授業者である、富雄中学校の越尾先生と広陵中学校の上西先生から報告していただきました。

大変有意義な 2 日間になりました。

＜研修会に参加して　＞

・米谷先生の講義を聞き、日頃自分の授業がいかに一方的な授業になっているかを改めて実感しました。音楽の授業は音のコミュニケーション、学校の音楽でしかできない授業を１時間１時間大事にしていきたいと思いました。

また、生徒が理解できていない、身についていないと感じることは教える側に何らかの改善点があり、問題があるとされていたことにハッとさせられました。どのような手立てが必要かをしっかり考える必要があると感じました。評価を付ける上で A の基準、B の基準を明確にすることの大事さに気付きました。あっという間の時間で、大変勉強になりました。ありがとうございました。　(若草中　　徳村ゆかり)

・指導の際の具体的な例を示してくださりながら、私たち音楽の教師が目指すことを教えて下さったように思います。２学期から頑張れそうです。(田原本中　　秋田智子)

・午前中は両日とも来れませんでしたが、午後は、指導案を検討でき、充実していました。
(香芝東中　　向手江美)

・知覚、感受のとらえ方、その事を理解した上での子どもたちの学びあいを当たり前のことですが、改めて勉強し、教師は研修が必要だと認識しました。
午後は、比較的ゆっくりした時間の中で、いろいろな意見を出し合いながら、１つ１つステップアップできたかなと思います。貴重な時間を費やすことができました。ありがとうございました。　(都祁中　　土野智鶴)

・わかっているつもりだった部分に関して、わかりやすく解説していただき、これからの実践に大いに役立てられると思いました。　(真美ヶ丘中　松浦昌江)